

## 「12月27日(土)の国際宇宙ステーション」

国際宇宙ステーション (ISS) は、一日に地球を16周、約90分で地球を一周しています。クリスマスだろうと年末だろうとお正月だろうと、そのサイクルは変更ありません。そして時々、日本列島上空も通過します。北西から南東に向かって列島を横断する場合と、南西から北東に向かって列島を縦断する場合があります。後者のほうが日本各地で見られる可能性が高くなります。しかし、その横断・縦断の時間帯が、夕暮れ時か早朝でないと、ISSの光を観察することはできません。地上はすでに夜で、ISSの飛行している上空にはまだ太陽光が残っている、微妙な条件の時しか見えないからです。

明日12月27日の夕方、久しぶりにいい条件でISSを見ることができます。本州の真ん中付近(能登半島→伊豆半島)をISSが横切り、四国・西日本～東北地方の広い範囲で、ISSの光軌を観察することができるのです。東京や大阪などの太平洋側は天気も良さそうで、非常に観望条件に恵まれています。



「2014年12月27日(土)夕方の国際宇宙ステーション飛行経路」(JAXAホームページ)

西日本～東北の広い範囲で観望可能です。晴れたら是非見てください。

12月27日 東京	時刻[JST]	方位角(度)	仰角(度)	直距離(km)
仰角が0度を超えた直後	17:45:00	310(北西)	-	2251
見え始めのとき	17:47:00	309(北西)	11	1425
仰角が最大のとき	17:50:00	268(西)	74	423
見え終わりのとき	17:53:00	137(南東)	13	1276
仰角が0度を下回る直前	17:55:30	136(南東)	-	2306

上の表は、東京での見え方です。関東地方では、ほぼこの表が適用されます。見え始めの17:47は、ISSの位置はまだ朝鮮半島上空です。地平高度も11°で、光度も暗く、見た目の速度も遅いです。その後、ベガ（こと座）とデネブ（白鳥座）のそばを通過します。見え始めから3分後には地平高度が74°に達します。74°といえば、感覚的には「ほぼ頭上」です。観測者との直線距離も450km以下になり、金星ぐらいの光の点が、かなりの速度で移動してゆくはずですが、名古屋・京都・大阪でも、ほぼ同じような見え方です。写真を撮るには、長時間露光が可能な一眼レフが必要です。もし、いいカメラをお持ちの方は、2014年最後のISSの姿の撮影に挑戦してみてください。



「森かげの国際宇宙ステーション（30秒間の動き）」（2014, 9, 14 / 北軽井沢 / C. Tanaka）  
（お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋）